

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立十三中学校 学校協議会

1 総括についての評価

【総括】

本年度の学校運営全体を通して、安定した教育活動を展開することができた。生徒の生活面において個別の課題は種々あるものの、学校総体としては落ち着いた状態を維持することができた。学力の向上については、昨年に引き続き全生徒に毎日宿題を課す、エブリディ・ホームワークの実施をはじめ、「教科別『学習の進め方』一覧」の改訂・配付、昨年度の生徒会が策定した「十三中学校授業のルール 5か条」の検証など、生徒への働きかけを行ってきた。同時に、教員の授業力の向上をめざし、今年度は全教員の研究授業を学年単位で実施するなど、校内体制を整備してきた。このような様々な取組を実施し、一定の成果を上げたものと考えている。学力調査における直近数年間の平均正答率の向上といった具体的な成果も見られる。また、生徒の物事に取り組む姿勢も前向きになってきており、正門前にも掲げている「いっしうけん命はかっこいい」をスローガンに、体育大会や文化祭など学校行事の質も高まっている。今後も継続した取組の中でさらなる成果につながることをめざす。

德育の推進に関しては、「いじめのない思いやりあふれる集団づくり」を目標に取組を進めている。残念ながらいじめ事案は発生するものの、即座に指導を行い、拡散したり、引きずることがないように対応している。今年度は総務省実施の「いじめ防止対策の推進に関する調査」に協力し、その分析と対応に努めている。また、服装や日常の行動面においてルールを守れるようきめ細かく指導を行いつつ、守れたクラスを表彰するなど自主的に規範意識を高める工夫をしている。

「健康・体力の保持増進」については、体力調査において、昨年よりも全国平均を上回る項目が半分あり、体育指導や部活動指導の成果が現れつつある。また、朝食の摂食率や睡眠時間の確保という問題については家庭の協力が不可欠であり、保護者への啓発を忍耐強く継続しているところであるが、同時に区の政策（ヨドネル）とのコラボレーションにより、例えば本校生徒の描いたポスターを区役所に掲示していただき市民への啓発を図るなど、その内容を具体化し、一段と効果的なものにする。

【評価】

- ・協議会初期のころから振り返ってみて、遅刻の年間総数など数値化の目標に関して前年比較できるような評価にしていいらしい。
- ・学校協議会の傍聴少ない。協議会の存在が学校運営の基礎となっていることが保護者等に伝わっていないことが残念。

学校⇒学校のHPにも掲出しているが感心が薄い。HPもSNSの延長と見られており、学校・PTAの運営の面からは見ていないようだ。

- ・学校は敷居が高い。協議会の認知度も低いので保護者会や入学式などでアピールすべきではないか。

- ・協議会の傍聴者増やす努力が必要。図書ボランティアにしてもやっている具体的なことがわかると参加してくれる。遅刻や図書館など個別のこととは反応できるが事業全体を通して話を聞く自信がない。
- ・委員はバランスよく学校の取り組みを理解しているから保護者を代表して、普段から保護者の声を聞き、それを協議会の場等で反映させればよい。傍聴がいないからダメというより、いかに保護者の意見を吸い上げるかが大事。
- ・委員も吸い上げる努力必要。委員としての心構え。
- ・不登校についてはスムーズに中学生活が送れような取組・ルールにのせてあげて欲しい。どんな状況か。

学校⇒現状、数字としてはかなりある。全く通学できていない子が各クラス 1 人程度の割合。対応として家庭への訪問や電話、教材を持って行ったり様々。

- ・できる中学では、先生がきめ細かくやっていくことが限界にきていたため、生徒会の WG で学力高めるにはどういうことができるか考えさせるとともに、予算も付けてアイデア（当校の 5 か条のルール）を形にさせてている。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【視点 学力の向上】

- 平成 28 年度チャレンジテストにおける平均正答率を府レベル以上にする。（カリキュラム改革関連）『3年 C 1・2 年結果待ち』
- 中学校 3 年生での英検 3・4 級程度の英語力を有する生徒の割合を 65% にする。〔現中 2 43% 〕（カリキュラム改革・グローバル化改革関連）『A 92.4%』

- ・平均正答率等で改善傾向にあるが、習熟度別少人数授業や Everyday Homework を継続してほしい。
- ・全国学力・学習状況調査について、平成 27 年度と 28 年度を比較して全国平均との差が拡大した。進路決定資料から全国学力・学習状況調査が除外された影響と捉えられるが、外的要因に左右されないことを要望する。
- ・読書活動のさらなる継続を望むが、多様なジャンルを経験させる必要がある。
- ・教育指導力の充実は、『waku×2 com-bee』周知徹底して実行しなければならない。
- ・1 年生は「職業講話」2 年生は「職場体験」を進路指導年間指導計画に位置付けており、高校進学へのアプローチも実施している。
- ・全国学力・学習状況調査について、平成 27 年度と 28 年度を比較して全国平均との差が拡大した。授業という手段で学力向上をするべきである。その環境づくりと生徒への意識づけが急務である。
- ・学校協議会において、指標について議論し、数値目標を設定する方法もある。
- ・生徒会の取組を土台にして、ワーキンググループを組織する。学力向上の企画立案を生徒自身で考えさせる必要性がある。

年度目標：【視点 道徳心・社会性の育成】

- 学校で認知したいじめについては、解消に向けて組織的に対応している割合を 100% で維持する。 (マネジメント改革・学校サポート改革関連) 『B』
- 学力調査における、「学校の規則を守っていますか」の項目における肯定的な回答の割合を前年度以上にする。 [27 年度 94.6%] (マネジメント改革関連)

- ・いじめ早期発見のためいじめアンケートの継続実施もお願いする。
- ・熟議を重ねる必要がある。また、道徳教育をさらに充実するべきである。
- ・生徒が安全かつ安心に過ごせる学校運営をめざしてほしい。
- ・『学校安心ルール』の内容はあくまでも例示であり、生活指導のひとつの基準として試行的に運用することを確認して欲しい。
- ・いじめ数を“0”にすることを目標にするのではなく、いじめの発見数を多くすることに目標を設定するべきである。

年度目標：【視点 健康・体力の保持増進】

- 学力調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を昨年度より向上させる。
[27 年度 「寝る」 72.0% 「起きる」 93.1%] (カリキュラム改革関連)
『A 「寝る」 76.2% 「起きる」 95.4%』
- 年度末生徒アンケートにおける、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目における肯定的な回答の割合を年度当初より向上させる。 (カリキュラム改革関連)
『B 「寝る」 12%増 「起きる」 1%減』

- ・女子への運動経験を増加してほしい。男女間の全国平均との差を縮めてほしい。
- ・『淀川すいみん白書』の結果を踏まえ、生徒へ生活習慣指導と保護者啓発を視野に入れて欲しい。
- ・生活習慣に起因する不登校は「ヨドネル」の取組で改善される可能性がある。

年度目標：【視点 学校に対する関心の高まり】

- 学校ホームページの閲覧数を前年度以上にする。 [27 年度 2 月末 23,515 件] (マネジメント改革関連) 『A 2 月 18 日現在 23,843 件』
 - 学校協議会の傍聴人数を 20 人以上にする。 (マネジメント改革関連)
『C 第 2 回 2 人』
- ・昨年度の閲覧数を超えるように、HP の更新を促進してほしい。
 - ・昨年度の閲覧数を超える可能性が高い。今後も魅力ある HP の更新を要望する。

3 今後の学校運営についての意見

- ・加算配付は中間目標とリンクさせるべきである。
- ・傍聴者数より、学校協議会の委員がどれだけの意見を集約して参加しているかが重要である。傍聴者は意見を述べることができないので、単なる傍聴者数の増加が学校協議会の活性化につながるとは限らない。
- ・中期目標の学力向上に関して、設定目標を大阪府の平均以上に設定してはどうか。
- ・学校の取組の運営の計画への反映を進めて行く。
- ・学力向上の取組として全国学力・学習状況調査に対する対策を行っていってもらいたい。
- ・小中の継続を意識した子どものカルテの作成を行っていく。
- ・生活習慣の改善のため保護者の力を借りていきたい。